

「紙パックリサイクル年次報告書2009」 発刊にあたって

2008年7月、北海道の洞爺湖町において主要国首脳会議（洞爺湖サミット）が開催され、環境・気候変動が主要な議題の一つとして取り上げられました。世界各地における干ばつや洪水、寒波、大型ハリケーンなどの異常気象は、農作物や飲料水の確保に大きな影響を及ぼしていると考えられます。日本国内においても、ヒートアイランド現象やゲリラ豪雨、近隣諸国に起因すると思われる汚染物質など、より身近なところで問題が見られるようになってきました。環境問題は、世界規模で協力しなければ解決が難しい深刻な問題であることが浮き彫りになってきていると言えるでしょう。

先日NHKで、月面越しに地球が昇っていく「地球の出」の映像が放送されました。月周回衛星「かぐや」が撮影したものです。月の地平線からゆっくりと姿を現す地球の神秘的な美しさに感動を覚えると同時に、このかけがえのない地球をなんとしても守らなければならないという思いを改めて強く抱きました。

そうした状況のなか、当協議会では洞爺湖サミットに先立って行われた「北海道洞爺湖サミット記念環境総合展2008」に出展し、紙パックのリサイクルを通じた啓発活動を展開するなど、これまでの活動に加えて地球環境保護や資源の有効利用の重要性を訴えてまいりました。また2006年6月の「容器包装リサイクル法」改正を機に環境自主行動計画の「3R活動」に基づいた循環型社会の構築に向けて活動を推進するため、飲料用紙容器に係る環境負荷削減に向けた行動計画「プラン2010」を独自に策定し、行動しています。

紙パックの回収率は2007年度で41.1%の実績となっており、前年度に比べ4ポイント近く向上しています。さらに「プラン2010」では2010年度に50%以上の目標回収率を掲げており、この目標回収率を達成するためにさまざまな取り組みを行っています。具体例としては、「全国牛乳パックの再利用を考える連絡会」との協働・連携活動による全国各地での「地域会議」「リサイクル講習会」「出前授業」等の開催、「エコプロダクツ展」「森林の市」「エコライフフェア」等への参画・出展、消費者への身近な宣伝媒体としての紙パック広告欄を活用した「環境キャンペーン」掲載によるリサイクルPR活動、さらには牛乳パック回収ボックス設置による紙パック回収活動などがあります。牛乳パック回収ボックスは、2008年5月の時点で設置数が1万3千個を超え、2万個設置を新たな目標として回収拠点の拡大に取り組んでいます。

紙パックは再生産が可能な森林資源を有効利用して作られている容器であり、使用後は「洗って」、「開いて」、「乾かして」分別回収することにより、良質な資源として再利用が可能となります。また資源の節約、エネルギーやCO₂排出等の環境資源の削減による地球温暖化防止に多々寄与している優良資源です。しかし、残念なことにリサイクルに要する手間隙の煩雑さから他の燃えるゴミと共に焼却処分されている現実もあり、回収率がなかなか向上しない傾向も見受けられます。紙パックはその多くが一般の家庭から排出されています。実際に「洗って」、「開いて」、「乾かして」分別していただく一般の方々や、それらを収集しリサイクルに回す仕組みを構築していただく地方自治体など、多くの皆様の協力なしにはリサイクル率の向上はあり得ないのです。

この度、紙パックリサイクル運動の啓発と周知を目的として、当協議会の活動内容を取りまとめた「紙パックリサイクル年次報告書2009」を発刊いたしました。2010年度に50%以上の紙パック回収率を目指す「プラン2010」に向けた活動を中心に、関連記事を掲載しています。どうか会員、各関係先皆様にご一読いただき、ご意見、ご指摘をお寄せくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

2009年1月



全国牛乳容器環境協議会
会長
山登 正夫

紙パック回収率向上のための アクションプラン

全国牛乳容器環境協議会（以下 容環協）では、「2010年度に回収率50%以上」を目標として掲げ、紙パックの回収率・リサイクル率向上を目指しております。具体的な取り組みは以下の通りです。

【目標】
紙パック回収率
2010年度 **50%以上**

- 自然の恵みを大切に、次世代の子どもたちが安心して暮らせる地球環境を継続的に維持していくため、紙パックリサイクルに係るすべての関係者との連携を強化し、回収率向上のための自主的活動を促進する。
- 再生可能な資源である紙パックを良質な資源として有効に活用することにより、資源の節約と環境負荷の削減を図ります。紙パックのリサイクルを通して資源の大切さを伝える活動を展開してまいります。

【主な取り組み】

- ①牛乳パックリサイクル促進地域会議および牛乳パックリサイクル講習会の開催。（全国牛乳パックの再利用を考える連絡会（以下 全国パック連）と共催）
- ②モデル地域集中プロジェクトによる地域回収ルートの普及拡大。（全国パック連と共催）

- ③牛乳パックリサイクル出前授業の開催。（全国パック連と共催）
- ④新しい回収拠点づくりとしての牛乳パック回収ボックス提供活動。2008年5月に提供個数13,000個を達成。20,000ヵ所に向けたさらなる展開。（全国パック連と協働）
- ⑤自治体への協力。（メッセージBOXキット、小冊子、ビデオ等、啓発ツール提供）
- ⑥小中学生に対する啓発促進。（子ども向け環境教育用ホームページ「牛乳パック探検隊」の運営）
- ⑦環境キャンペーン。（商品に環境メッセージ広告を掲載）
- ⑧牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール協賛。
- ⑨紙パックLCA調査研究の活用。
- ⑩環境イベントへの積極的参加。（エコプロダクツ展、森林の市、エコライフフェア、北海道洞爺湖サミット記念環境総合展等）
- ⑪飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査および、回収量拡大のためのフォローアップ。
- ⑫学校給食用牛乳パックのリサイクル促進モデル事業推進。
- ⑬ホームページの拡充。
- ⑭国、自治体、市民団体、全国パック連、リサイクル団体、関係事業者等との協議の場を設け、連携強化を図る。
- ⑮再生紙メーカーとの連携強化、リサイクル製品の利用拡大。
- ⑯紙パックリサイクル年次報告書発行。

「容環協」とは？・・・全国牛乳容器環境協議会

「容環協」は、牛乳パックなど紙パックのリサイクルを促進している組織です。

CONTENTS

活動トピックス

プラン2010	2
牛乳パックリサイクル促進地域会議	4
牛乳パックリサイクル講習会	6
牛乳パックリサイクル出前授業	7
森林の市・エコライフフェア・エコプロダクツ2008	8
牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール	9
容環協の取り組み	10

活動報告ダイジェスト

2007年度の紙パック回収率	14
2007年度 紙パックマテリアルフロー	16

2008年度活動報告

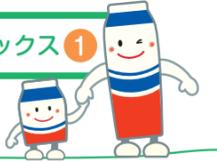
小売事業者のリサイクル状況	18
福祉作業所の回収状況	19
市町村回収・集団回収の状況	20
学校のリサイクル状況	22
再生紙メーカーのリサイクル状況	23

紙パックのリサイクル学

紙パックを取り巻くダブル循環 <small>ループ</small>	24
北米紙パック原紙メーカー視察	26

全国牛乳容器環境協議会の概要

あゆみ	27
会員一覧	28



飲料用紙パックリサイクル行動計画
—回収率50%に向けて—
「プラン2010」を推進しています。

容環協では、2010年度を目標年度とする行動計画「プラン2010」を2007年5月に策定しました。これは飲料用紙容器にかかる環境負荷削減に向け、これまで実施してきた環境保全やリサイクル活動を、より強化した行動計画を定めたものです。

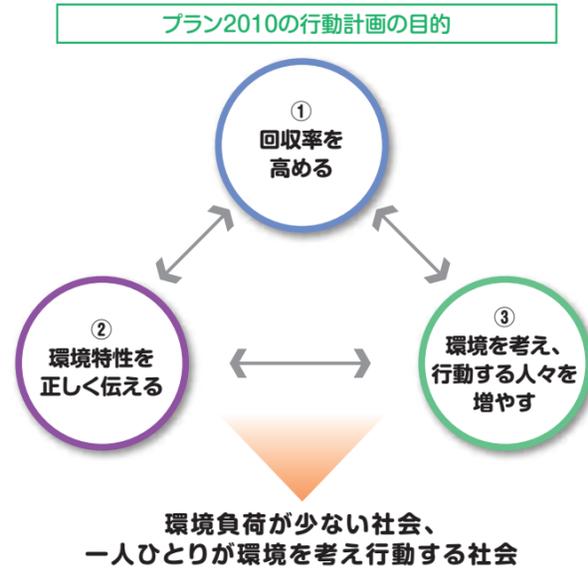
飲料用紙パック(以下紙パック)は、今や生活になくてはならない存在。実に年間100億個近くが牛乳やジュース、コーヒーなどの容器として使われています。環境面から見ても、適切に管理された森林からのバイオマス資源を、素材とエネルギーの両方に使用しており、製造工程でも環境負荷が小さい容器です。また紙パックのパルプは良質な資源で、リサイクルすることで、環境負荷をさらに削減することができます。



「プラン2010」の詳細内容はホームページでご覧になれます。

【プラン2010の行動計画】

- ①紙パックの回収率を高める
回収率50%以上に高めることで、環境負荷をさらに削減します。
- ②紙パックの環境特性を正しく伝える
紙パックの回収率向上活動とあわせてバイオマス資源を利用している紙パックの環境特性を社会に正しく伝えます。
- ③環境を考え、行動する人々を増やす
紙パックの回収率向上活動を通して資源や環境を考え、行動する人々を増やします。



「プラン2010」の
具体的な行動計画を
展開しています。

I 家庭系紙パックの回収率向上

- 地域の回収力向上
地域特性に応じた地域会議・リサイクル講習会の開催や情報提供を実施しています。
- 回収のきっかけづくり
市町村の分別回収・拠点回収などを促進するとともに、牛乳パック回収ボックスの提供を継続しています。
- 牛乳1,000ml以外の回収促進
500mlパックが回収できることを啓発し、小型容器についても適切なリサイクルを推進しています。
- 再生品の利用促進
紙パックの再生品の利用を広く呼びかけるとともに、牛乳パック再利用マークの普及拡大を目指しています。
- 総合的かつ広範な啓発活動
諸イベントへの出展、商品容器への環境情報掲載キャンペーン、ホームページなどを、いっそう充実させています。



ネットワークの拡充

「プラン2010」は容環協が一つの核となって計画の実現を目指しますが、さまざまな組織や人の関与なしには、目標達成に向かうことはできません。紙パックリサイクルに関わるネットワークを拡充することで、この活動を社会に広げていきます。

II 教育や学習の場における活動の促進

- 教育・学習とリサイクルの協調
「出前授業」の共催など、紙パックリサイクルを通じた環境学習を推進するとともに、学校を核とした地域コミュニティでの回収率向上を目指しています。
- 学校給食用紙パックの回収率向上
効率的な学乳パックリサイクルの情報を提供しています。

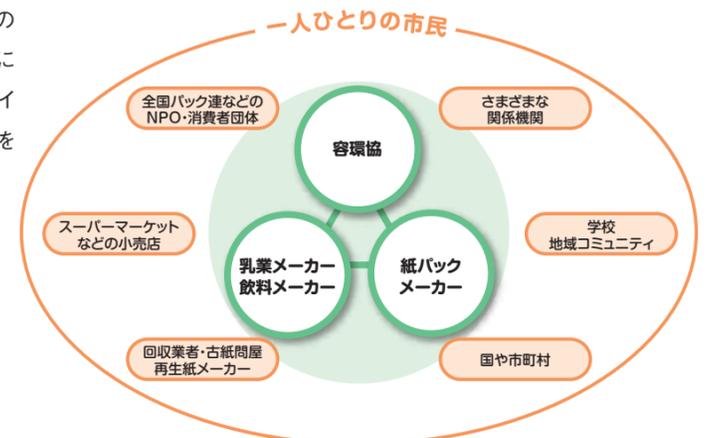
III 店舗などで使用される紙パックの回収促進

事業系の紙パックの使用実態を継続調査し、モデル事例の発掘・紹介を通して、回収ルートの整備に努めています。

IV よりよいコミュニケーションに向けた情報の整備

回収ルートが把握されていない紙パックの実態調査など、より精度の高いデータを収集・分析しています。

計画の達成に向けた 柔軟で強力なネットワーク





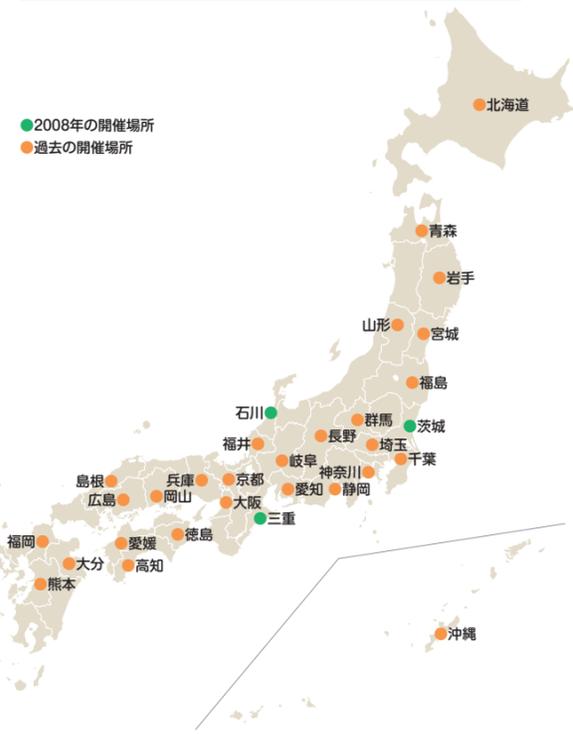
牛乳パックリサイクル促進地域会議

各地域の報告や提言から、牛乳パックリサイクルの“これから”を探る。

容環協と全国パック連の共催により、全国各地で開催している「牛乳パックリサイクル促進地域会議」。2008年も三重、茨城、石川の3カ所で開催しました。この会議は、牛乳パックのリサイクルにおいて、地域ごとの課題を含めた現状を把握し、情報交換を通じてリサイクル拡大の糸口を探すものです。

各会議とも、自治体をはじめ、関連メーカーや古紙回収業者、市民団体など多彩なメンバーの参加を得て、さまざまな事例が紹介されました。関係者が相互に理解を含め、よりいっそうリサイクルを促進していく方法を探し出しています。

地域会議の開催場所



牛乳パックリサイクル促進地域会議 in 三重／津市

◆開催日 2008年2月14日
◆参加者 三重県、2市町、乳業メーカー、古紙事業者、再生紙メーカー、市民団体など計38名

【主な報告や問題提起】

- 三重県は「ごみゼロ社会実現プラン」を策定。県下29市町のうち28市町で行政による牛乳パックの回収を実施し、年間350トン回収。残る1町でも、民間ベースでリサイクルが行われているとのこと。
- 各市町村からも、さまざまな取り組みが報告されました。例えば伊勢市では、牛乳パック1キロ当たり6円の奨励金を出して市民によるリサイクルを支援。四日市市では、「出前講座」という形で市職員が地域に出向き、リサイクルの問題などについて年間6,000人以上の市民に話をしているそうです。
- 津市のリサイクルボランティア団体は、スーパーの回収ボックスや、容環協が無償提供する回収ボックスを活用して集めた牛乳パックなどの売却益を社会福祉協議会に寄付し、電動ベッドや車椅子の購入に役立てているとのこと。
- 三重県牛乳協働組合からは、牛乳パックのリサイクルに取り組んでいる学校に、トイレトーパーを還元する事業を始めたとの報告がありました。



有意義な情報交換が展開された津市での会議

牛乳パックリサイクル促進地域会議 in 茨城／水戸市

◆開催日 2008年7月10日
◆参加者 関東農政局、茨城県、18市町、乳業メーカー、再生紙メーカー、紙パックメーカー、流通事業者、市民団体など計57名

【主な報告や問題提起】

- 茨城県からは、紙パックの店頭回収を行うなど環境に優しい取り組みをしているお店を認定する「エコショップ制度」の紹介がありました。
- 県内で先進的に学乳パックリサイクルに取り組んできた筑西市(旧明野町)からは、「子どもたちに物の大切さを教える環境教育の一環として始めた。合併後の06年4月からは、筑西市の全小中学校・市立幼稚園にも取り組みが広がった」との報告がありました。
- 廃食油をバイオディーゼル燃料にリサイクルする事業を展開する関東バイオエナジーからは、「学校給食センターから廃食油を回収する際、学乳パックも一緒に回収できるのではないかと前向きな提言がありました。
- 牛乳パックリサイクル運動草創期からのパートナーである古紙問屋の山田洋治商店は、紙すき講習なども行いながら学乳パックリサイクル促進を図っており、「子どもたちは大人が思っている以上に考え方が柔軟。強力なリーダーシップを発揮する先導者がいれば必ずうまくいく」と強調しました。



57名もの参加者が集った水戸市での会議

牛乳パックリサイクル促進地域会議 in 石川／金沢市

◆開催日 2008年10月23日
◆参加者 北陸農政局、石川県、2市、乳業メーカー、再生紙メーカー、流通事業者、市民団体など計36名

【主な報告や問題提起】

- 石川県は、県内19市町の紙パック回収の取り組み状況について報告。行政回収の実施(拠点回収含む)が15、集団回収の助成が2、スーパーでの店頭回収など民間ルートでの回収が2とのこと。また、県が把握している紙パックの回収量は、年間130~140トンとのこと。
- 金沢市では、2002年度から18校で学乳パックリサイクルの取り組みが行われ、現在は28校に拡大。実施校には、「へんしんロール」と名付けた再生紙トイレトーパーを配付しているとのこと。
- コープ石川では、約150台の配送車が品物を届ける際に牛乳パックを収集。供給量に対する回収率は130%(重量換算)との報告がありました。
- 石川県再生資源事業協同組合は、牛乳パックの回収量が1998年以降ほぼ400~600トンの間で推移しているとの報告がありました。



活発な意見交換が行われた金沢市での会議

牛乳パックリサイクル講習会



全国4カ所で実施。
講習会の中で、回収ルールや
手開きも体験しました。

紙パックリサイクルの現状や、紙の原料となる森林の管理状況を説明するとともに、回収ルールの体験を通して牛乳パックの回収に関心を持っていただくため、「牛乳パックリサイクル講習会」を毎年開催しています。2008年は、容環協のメンバーで開催した分を含めて、下記の4カ所で実施しました。

【日進市】7月30日

“市民と行政がともに考える”というスタンスで環境対策を進める日進市。講習会は市の夏休み環境学習として開催され、25名の子どもたちが参加しました。まず、紙パック生産やそのリサイクルの現状、紙パックを資源化するためのルールなどについて説明が行われました。その後、全国各地の学校で取り組まれているリサイクル事例のビデオを見ながら参加者全員で牛乳を飲み、パックの簡単な開け方を学習。また、手すきはがきづくりに挑戦してもらいました。

【明石市】8月10日

市のごみ処分や資源化活動を担う「明石クリーンセンター」に、子ども65名・大人27名の、総勢92名が集まりました。紙パックリサイクルについての講義の後、「手

すきはがきづくり」と「びっくり箱づくり工作」の2班に分かれて体験講習を実施。猛暑の中、よく冷えた牛乳がおいしいと好評でした。

【蕨市】8月22日

ごみの資源化率が約30%と、全国平均を10%以上も上回るなど、環境活動に熱心な自治体である蕨市。今回は、容環協のメンバーにて企画実行し、地域のコミュニティセンターにおいて、子ども12名の参加のもと、講習会が実施されました。講義は子ども向けに簡潔にまとめられた資料をもとに進められ、参加者は熱心に耳を傾けていました。その後参加者は紙すきを体験し、押し花を封じ込めた絵はがきを作りました。

【函館市】11月19日

雪の舞う悪天候の中でしたが、函館市や地元乳業メーカーの協力もいただき50名を超える市民の方々が参加。市内9割近くの公立学校で給食の牛乳パックリサイクルが実施されていることなどが説明され、市が制作した環境啓発DVD「未来を包み込む一粒のしずく」が上映されました。

その後、「手すきはがきづくり」体験を実施。参加の皆さまは熱心に説明に聞き入り、童心に返ったようにいきいきと手すきに挑戦。2枚目の製作に取りかかる方もいらっしゃるなど、盛況のうちに講習は終了しました。

牛乳パックリサイクル出前授業

小学校で出前授業。
子どもたちと牛乳パックの
リサイクルを考えました。

子どもたちに紙パックリサイクルに対する興味・関心を持ってもらい、学乳パックのリサイクルを促進するため、2007年より始まった全国パック連主催の「牛乳パックリサイクル出前授業」を、2008年から共催で進めています。授業は牛乳パックおよび学乳パックのリサイクルに取り組んでいる小学校にスタッフらが出向き、リサイクルの現状を説明し、手すきはがきづくりなどを体験するもの。今年下記6校で実施しました。

【南伊勢町立南島東小学校】2月15日

1・2年生41名を対象に行いました。リサイクルや森林について、低学年に向けてやさしくアレンジした講義を行った後、牛乳パックを利用した紙すきを体験してもらいました。

【太田市立中央小学校】6月12日

6年生67名を対象に実施しました。リサイクルの現状や森林管理についての講義中、話に関心する生徒たちの真剣な表情が印象的でした。その後、牛乳パックを利用した紙すきを体験してもらいました。

【平塚市立岡崎小学校】11月5日

3年3組の30名に授業を行いました。講義の後、紙

すきを体験。何人かがバットの中の「パルプ」に興味を抱き、主催者に質問するシーンが見られました。紙すき体験は、資源を無駄にせず大切に扱うことのすばらしさを実感することができます。「パルプ」に興味を持ってもらえたことは、非常に有意義でした。

【名張市立美旗小学校】11月12日

全校を上げて牛乳パックのリサイクルに取り組む美旗小学校で、3年生全員の53名に向けて授業を実施しました。映像や生徒への質問を交えながらの講義で触れたCO₂削減効果の話題には、担任の先生方も熱心に聞き入っていました。紙すき体験では、生徒たちができあがったオリジナルのはがきを目を輝かせて眺めていました。

【大阪市立鶴町小学校】11月13日

2005年より本格的なゴミの分別回収が始まった大阪府で、4年生1クラス30名が出前授業を受けました。とても明るく活発なクラスで、講義の間にはさむクイズにも、元気に答えていました。紙すき体験では生徒たちから積極的に声が挙がったため、スタッフから紙すき用のパルプの作り方について話をするなど、充実した授業となりました。

【北杜市立武川小学校】12月16日

牛乳パック回収運動の発祥の地である山梨県では初めて、先生を含む31名を対象に出前授業を実施しました。紙パックの環境面における役割について講義をした後、紙すきに挑戦。授業の間中、生徒みんなが目を生き生きとさせていました。



牛乳を飲んでパックを手開きする体験(明石市)



完成した手づくりはがきを手に記念撮影(蕨市)



手づくりはがきの完成を喜ぶ(平塚市)



問いかけに元気いっぱいに応える生徒たち(大阪市)



イベントに参加し、
多くの方々に紙パックリサイクルの
大切さをアピール。

【森林の市】5月10日、11日

日比谷公園にのり木広場で開催された「平成20年度森林の市」に、今年も出展しました。前年行った紙パックの手開きに加え、小型容器の牛乳を飲んでその容器をリサイクルする体験を実施し、一歩踏み込んだリサイクルへの動機付けに取り組みました。説明や写真を一新したパネルを使用した展示では、紙パックは環境にやさしい容器であり、飲んだ後洗って、開いて、乾かせば有用な資源となることを紹介しました。



牛乳パックのリサイクルを体験

【エコライフフェア】6月7日、8日

エコロジカルなライフスタイルを広めていくことを目的として開催される「エコライフ・フェア」に今年も出展。新たな企画として、ワークショップを実施しました。パネルを使用してリサイクルについての基本的な説明を行い、その後牛乳を飲んでその容器でリサイクルを体験するワークショップは、入場制限が必要なほどの盛況を見せました。



ワークショップでリサイクルの説明

今年からスタートした
「牛乳パッククイズ」が
子ども・大人ともに大盛況。

【エコプロダクツ2008】12月11日～13日

過去最大の入場者173,917人が集まった環境展「エコプロダクツ2008」が東京ビッグサイトで開催され、容環協は連続5回目となる出展を行いました。

全国の牛乳メーカーから取寄せた約900個の紙パックによる「牛乳パック壁面展示」や「工作コンクール受賞作品展示」、「森林」「牛乳パックリサイクル」「再生品」の各コーナー、全国パック連の協力による「手すきはがきづくり」などの企画は恒例となりました。

また今回は新たに、容環協の活動を広く知っていただくため「容環協コーナー」を設け、回収率の最新データや冊子類を紹介。さらに「牛乳パッククイズ」には子ども860名、大人1,434名と大勢の方から回答をいただくことができました。得られた情報を今後の活動に活かしていくつもりです。



パッククイズに注目が集まる



手すきはがきづくりも人気

古田凛莉桂さんの
「シロスケくん、もう一ど」が
最優秀賞に。

今回で8回目を迎えた「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」は、全国の小学校より6,162点にも及ぶ多数の応募がありました。力作ぞろいの中から厳正な審査の結果、受賞作8点が決定しました。



最優秀作品「シロスケくん、もう一ど」
古田凛莉桂さん(本巣市/小学2年生)

《受賞作品》

- ◆最優秀賞 「シロスケくん、もう一ど」
古田凛莉桂さん(岐阜県・本巣市立一色小学校2年)
- ◆優秀賞 「わたしの町、河内長野」
山本陽菜さん(大阪府・河内長野市立小山田小学校3年)
- ◆優秀賞 「ふくげんアンモナイト」
小林慶太さん(東京都・荒川区立尾久宮前小学校5年)
- ◆全国小中学校環境教育研究会賞 「なつのおもいで」
秦まりなさん(和歌山県・和歌山市立三田小学校1年)
- ◆全国牛乳パックの再利用を考える連絡会賞
「てつどうはくぶつかんのおもいで」
小峰佑太さん(栃木県・宇都宮市立横川東小学校2年)
- ◆全国牛乳容器環境協議会賞 「白くじゃく」
延江佑紀さん(岡山県・岡山市立竹枝小学校6年)
- ◆日本酪農乳業協会賞 「せんかんやまと」
岡俊樹さん(広島県・東広島市立西条小学校1年)
- ◆テトラパック賞 「ミルクロックス」
山本恭輔さん(千葉県・千葉市立作新小学校5年)

見事、最優秀賞に選ばれた古田凛莉桂さんの「シロスケくん、もう一ど」は、愛犬を表現するために牛乳パックの特性を利用して工夫を重ね、ねばり強く作り上げた努力が評価を集めました。

受賞作の表彰式は「エコプロダクツ2008」の容環協ブースにて行なわれ、実行委員長を務める容環協の山登正夫会長をはじめ、実行委員の方々から、賞状、盾、副賞が受賞者一人ひとりに贈られました。

受賞作品は容環協の子ども向けホームページ「牛乳パック探検隊」で紹介されています。



最優秀賞受賞の古田凛莉桂さん



エコプロダクツ2008での表彰式



容環協の取り組み

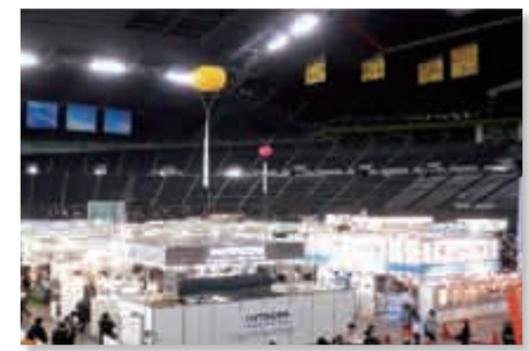
洞爺湖サミット記念環境総合展 (2008年6月19日～21日)

地球環境問題を考えるサミットの
関連イベントで、多くの方々に
牛乳パックリサイクルを啓発。

【イベントのあらまし】
 主要8カ国の首脳が一堂に会し、地球温暖化対策などについて話し合う「北海道洞爺湖サミット」(2008年7月7日～9日)に先立ち、「洞爺湖サミット記念環境総合展」が6月19日から3日間、札幌ドームにて開催され、容環協は、このイベントに出展しました。

地球環境問題の解決に対し、“いま、私たちに何ができるのか、私たちは何をなすべきか、私たちはどこに向かっているのか”を世界に問かける試み(北海道知事)ということもあり、国内外の企業や専門家を始め多数の市民の方々が集いました。展示会事務局の発表によると、3日間の来場者数は約8万4千人、予想を2万人も上回ったとのことでした。

容環協では、牛乳パックのリサイクル体験を中心に、パネル展示、年報やパンフレット・チラシなどの配付による啓発を行いました。

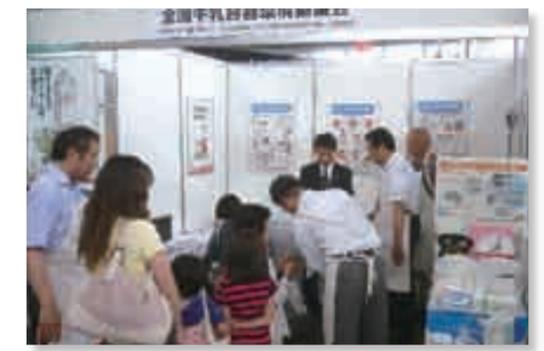


熱気に包まれた札幌ドーム

【容環協ブースの様子】
 容環協ブースには老若男女を問わず多くの来場者が訪れ、最終日のお昼にはリサイクル体験用に用意していた牛乳がなくなるほどの盛況を見せました。向かいのブースに出展し、牛乳を配布されていた酪農学園大学にご協力をいただき、来場者の方々には酪農学園大学のブースで牛乳を飲んだ後、容環協のブースに来て、牛乳パックのリサイクル体験を行っていただきました。

目についたのは、小学生の子どもたちが牛乳パックを開く際の手ぎわのよさです。何人かに訊ねたところ、札幌市の小学校では普段から熱心に牛乳パックのリサイクルに取り組んでいるとのことでした。

ブースを訪れた方々からは、「牛乳パックの原料が北米・北欧で計画的に管理された針葉樹の残材だと初めて知った」「いままでストローを紙パックの中に入れて捨てていたが、これからは分別したい」「牛乳パックがこんなに簡単に開けるとは思わなかった」など、多くの声が寄せられました。



一時は順番待ちが生じたことも

鎌倉市視察 (2008年5月15日)

リサイクル率3年連続全国第1位
(人口10万人以上の市町村)の
鎌倉市の取り組みを視察。

【笹田リサイクルセンター／鎌倉市役所】
 はじめに1997年より運用されている「笹田リサイクルセンター」を見学。市民と行政が一体となってゴミの減量化・資源化を図り、循環型社会づくりを推進するための施設です。「再生利用棟」では、市民活動団体「鎌倉リサイクル推進会議」が、リサイクルについての情報の収集と提供を行うとともに、各種の教室・催し物など開催。年間2,000人も参加があるそうです。資源物の再資源化のための選別を行う「選別棟」では、回収用のプラスチック箱の洗浄などが目を引きました。

その後、鎌倉市資源回収協同組合を経て、鎌倉市役所を訪問。環境部より、観光客のゴミ捨てマナー違反を減らすためのゴミ箱集中化など、ユニークな取り組みについてお話がありました。

今回の視察をご案内くださった鎌倉リサイクル推進会議の高田晶子様は、企業広告によって古都の美観を損ねているバス停のベンチを相応しいものに交換する活動も行っておられます。容環協もこの取り組みに賛同し、2カ所にベンチを寄付させていただきました。



容環協が寄付したバス停のベンチ

環境キャンペーン (2008年6月・10月)

消費者が直接手にする製品の
紙パックに、大きく
メッセージを掲載。

【キャンペーンで環境メッセージを掲載】
 紙パックリサイクルにとっては、パック商品を利用する全ての人々の理解が必要。そこで、毎年6月の環境月間と10月の3R推進月間に、「環境キャンペーン」として、消費者が手にする製品の紙パックに環境メッセージを掲載しています。

「森林の恵みからうまれた牛乳パック」「みんなでのんからリサイクル」「リサイクルありがとう」をキャッチコピーに、紙パックが環境にどのように関わっているかや、紙パックリサイクルが環境負荷の軽減につながることを、リサイクルにご協力いただいていることへの感謝を表しています。

2008年6月は全国21社約3,280万個、10月も同じく21社の事業者の協力のもと、約3,470万個の商品に掲載してきました。前年6月より牛乳や乳飲料だけでなく果汁や清涼飲料などを含めた掲載対象商品の拡大と、通年での掲載継続を推進しています。

なお、ご協力いただいた全商品のパッケージデザインを、容環協のホームページで紹介しています。



牛乳、清涼飲料、果汁飲料など紙パックの原料は同じです。内面が白い紙パックはリサイクルも同じようにできます。



容環協の取り組み

リサイクル促進意見交換会

プラン2010のフォローアップ報告や、紙パックリサイクルの促進に向けた意見交換を行いました。

【全関係者との意見交換会】2月7日

国、自治体、市民団体、乳業メーカー、紙パックメーカー、原紙メーカー、再生紙メーカー、古紙事業者、流通事業者など、関係団体68名の参加のもと、東京・千代田区の乳業会館にて意見交換会を行いました。

農林水産省からは、今年は地球環境対策としてCO₂削減目標達成計画の見直しを行うこと、経済産業省からは、分別排出の徹底や上質古紙の回収を促進していくこと、環境省からは、3R推進事業の取り組みや3R推進マイスター制度(容器包装廃棄物排出抑制推進員)について報告がありました。再生紙メーカーからは、紙パックの原料が足りず操業に苦慮していることや、古紙の価格が高騰しているが製品の価格には反映できない状況であるという意見、流通関係者からは、近年各地で進むゴミの有料化に伴って、店頭での紙パック回収量が増加し手いっぱいになっているという報告などが寄せられました。

また、1月26日～31日に実施した北米視察の報告がありました。原紙メーカーに関するLCIデータ(“紙パックが環境にやさしい”ことの根拠となるもの)をご提供いただいている北米第一の原紙メーカーであるウエアアハウザー社を訪れ、環

境負荷の低減が進んでいるとの報告がありました。

【再生紙メーカーとの意見交換会】7月8日

再生紙メーカー6社に加え、市民団体、乳業メーカー、紙パックメーカー、古紙事業者などから29名が参加し、静岡県富士市にて意見交換会を実施しました。

はじめに容環協より、飲料用紙パックリサイクルの現状や動向について報告しました。

その後、紙パック再生利用製品の利用促進に向けた取り組みや、牛乳パック再利用マーク表示製品の現状、紙パック回収の必要性を意識していない層への働きかけなどについて、活発な意見交換が行われました。

また、容環協委員など13名が、丸富製紙(株)の富士根工場を見学。この工場は再生紙メーカーで初めてISO14001認証を取得、環境に対する同社の意識の高さがうかがえました。

丸富製紙は、100%古紙を原料に芯なしのトイレットペーパーを製造しています。紙パックの原料配合率は約3分の1。資源保護のため、1回限りの使用であるトイレットペーパーには未使用パルプを配合しない方針であるとのことでした。



各県から参加者が集まった、全関係者との意見交換会



トイレットペーパーの原料となる紙パック古紙(富士根工場にて)

ホームページ

容環協の取り組みや紙パックリサイクルについて、楽しく・わかりやすくご案内。

容環協のホームページは、最新情報を随時更新。「牛乳パックリサイクル促進地域会議」や「牛乳パックリサイクル講習会」の報告、各年度の年次報告書、中期行動計画「プラン2010」などが閲覧できるようになっています。紙パックのリサイクルの流れや回収率についてもわかりやすく図表でまとめ、リサイクル事例や会員企業の活動などもご紹介しています。容環協のキャラクター「牛乳パックン」を所々に配置しているほか、動きのある画面づくりを行い、見た目の楽しさもプラスしています。

また、小学校の中・高学年向けに「牛乳パックン探検隊」というサイトも開設。「牛乳パックンの秘密を探しに北の森へ」、「世界中で愛されているよ、牛乳パック」、「地球とみんなのためにリサイクル」と題したコンテンツで、森林のことやリサイクルのことなど「牛乳パックと環境」について、牛乳パックンがわかりやすく説明します。写真も豊富に用いた、楽しくてためになるこのサイトも、ぜひご覧ください。

ホームページアドレス <http://www.yokankyo.jp>
牛乳パックン探検隊 <http://www.packun.jp>



“見やすさ”にも配慮し、すっきりとしたデザインの容環協HP



牛乳パックンが楽しく解説する、小学生向けサイト

回収拠点拡大活動

全国13,000ヵ所以上に、牛乳パック回収ボックスを設置。

牛乳パックリサイクルは、市民一人ひとりのネットワークが作り上げてきたものです。

新しい回収協力者を作るためには、新しい回収拠点を生活エリアに数多く設置することが不可欠となります。

そこで全国パック連と容環協は、牛乳パックの再生紙を使用した軽便な牛乳パック回収ボックスを製作し、全国各地に提供して拠点づくりを進めています。おかげさまで、2008年5月には、設置個所が13,000ヵ所を突破しました。今後は、提供数20,000ヵ所を目標に、拠点拡大に努めていきます。

また、紙パックのリサイクルの工程を示し、再生品で作られたトイレットペーパー、ティッシュペーパー、紙ひもなどの啓発ツールをセットした「メッセージBOXキット」を市町村のリサイクルセンターなどに提供し、設置させていただいておりますので、ぜひご覧ください。



全国パック連と容環協が提供している牛乳パック回収ボックス

牛乳パック回収ボックス提供個数

